

## 「2013 慶北大学校サマースクール参加報告書」

京都大学経済学部2年 (氏名) 小林加奈

わたしがこのサマープログラムに参加したのは、自分で新たな一歩を踏み出したいと思ったからです。高校の修学旅行でしか海外へ行ったことのなかったわたしにとっては、自分の意思で決めた初めての海外渡航でした。海外留学と聞くと、自分には到底できることない大それたものだというイメージがありました。しかし、今回の意思決定におけるプロセスでは、ことの重大さを感じることはほとんどなく、自分が思っていたよりも手続き等はずっと容易で、外国を近くに感じることができました。

韓国での二週間の滞在の中で、やらなくて後悔していることがあります。それは自分があまり外国語を話さなかったことです。向こうでお世話をしてくれた韓国人学生たちが日本語を話せたり、京大から一緒にいったほかの参加者が韓国語を話せたために、わたしは第一外国語である英語も第二外国語である朝鮮語もほとんど話すことはありませんでした。二週間で韓国語のリスニング能力は向上しましたが、スピーキング能力は変化がないように思います。プログラムが始まる前にもっと勉強しておけばよかった...と何度も思いました。

このサマープログラムを通じて得たことはいくつもあります。一つあげるなら、世界情勢と身近な交流は関係がほとんどないということです。歴史的なものを中心に、日韓の間には国際問題がいくつか存在しています。しかし、韓国の学生との交流の間ではそんな揉め事など一つも感じることはありませんでした。日本人だからと道行く人に悪さをされたりすることもなく、光復節である8月15日も韓国で楽しい一日を過ごすことができました。派遣前には報道では過激な運動ばかりが取り上げられ、日本の評価が下がっているのではないかと悲しくなることもありました。実際に生活する分には何も障害はありませんでした。

このプログラムを通して、世界は近いと感じることができました。そしてまた機会があれば短期の派遣に参加してみたいとも思いました。

最後に、京都大学・慶北大学の関係者の方々、他の大学からの参加者、京都大学の五人及びお世話になったバディ全員に感謝の言葉を送ります。本当にありがとうございました。